

『あいさつ』



実行委員長
野中 保



星が丘公民館長
小泉 博

50年の重みに応えて

星が丘公民館創立50周年誠におめでとうございます。

星が丘公民館は、地域住民の生涯学習の拠点として昭和33年に設立され、戦後の混乱期を乗り越えられた沢山の先輩諸氏のたゆまないご尽力の賜であると心から深く感謝申し上げます。

さて、創立50周年記念事業にあたりましては、地域住民の皆さん、公民館利用者の多くの皆さん、各委員の皆さんには格別なるご支援ご協賛を賜りまして心から深く感謝申し上げます。お蔭様で半世紀の節目に相応しい多くの足跡を残す事が出来ました。各事業ともに成功裡に展開出来たものと確信しております。

これからの公民館活動では、地域文化の発祥・伝承に努めることはもとより、更に公民館・学校・地域の連携を密にしていくことが大切と思われます。またこれからも文化・体育・健康増進等の生涯学習に励み、心豊かで犯罪のない安全安心なまちを次世代の皆さんにバトンタッチできるよう、私たちは今後ますますの努力を惜しまない所存です。

輝かしい功績をたたえて

昭和33年4月1日の開館以来、地域主義の原則を踏まえて先輩の方々が学習への意欲と情熱を傾注し、努力されてこれ、それから50年の歳月が過ぎ今の公民館があるわけです。ここに、諸先輩の輝かしいご功績をたたえるとともに築き上げてこられた歴史の重みを痛感いたしております。

いま50年の重みを踏まえて、急速に変容する現代社会に対応するためには、今まで以上に生活課題や健康の維持・人々との交流等についての事業の展開が求められています。

公民館改革で職員体制が大きく変わった現在、これらの事業の展開には、地域の皆様や関係諸団体のご理解とご協力が不可欠です。公民館のあり方を検討しながら、地域主義の原則・住民主体の原則等を踏まえ、50年の重みを背負い、時代の要請に応えるよう地域の皆様のご支援をいただきながら、職員とともに公民館運営に努力して参ります。

最後になりましたが、地域・関係諸団体ならびに利用サークルの皆様、そして50周年記念事業実行委員会委員の方々の深いご理解とご支援をいただき、50周年記念事業を輝かしい歴史の1ページとして加えることが出来ましたことに深く感謝と敬意を申し上げ挨拶いたします。

『あいさつ』



相模原市長
加山 俊夫



教 育 長
雨宮 博之

生涯学習の拠点としての50年

星が丘公民館がここに創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

星が丘公民館は、本市が市制を施行した4年後の昭和33年に、星が丘小学校の講堂に設置されました。その後、昭和57年に地域の皆様の強いご要望により現在の建物が建設され、独立館として星が丘地区の生涯学習における文化、学習、スポーツの拠点として大きな役割を果たしてこられました。

開設以来、活発な公民館活動を支えてこられました歴代館長さんをはじめ、地域の方々の一方ならぬご尽力に対し、深く敬意を表する次第です。

本市は、自立性のある自治体運営を進めるために平成22年4月の政令指定都市への移行をめざしております。この様な中で心豊かに安心して暮らせる魅力ある地域づくりのため、公民館の果たす役割はますます重要になってくるものと考えております。

今後も、生涯学習の場や機会の充実を図るなど70万市民の教育文化の向上に努めてまいり所存でございます。地域の特色あるまちづくりを推進するにあたり、公民館関係者の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に50周年をひとつの節目として星が丘公民館が地域の皆様とともに、ますます充実発展されますことを祈念し、お祝いのことばといたします。

地域に根ざし地域に愛される公民館

星が丘公民館が、創立50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴公民館におかれましては昭和33年の創立当初から女性活動や青年活動等が盛んに行われており、また現在は、星が丘小学校との学社連携事業を始めとした地域に密着した様々な公民館活動が展開されています。この間、公民館が住民の皆様に広く親しまれていることを大変こころ強く、嬉しく思います。

このことは、歴代館長さんを始めとする公民館の役員、関係者の皆様のご努力の賜物と深く敬意を表するものであります。

本市の公民館活動は相模原教育の大きな特色です。教育委員会の役割として、「市民や児童・生徒に対する、より良い学びの環境づくり」があります。そのためには、教育委員会と公民館をはじめとした市民との協働、連携協力を図る必要があります。

また近年、人と人とのつながりや地域の連帯感が低下しています。これらを解消するためのコミュニティづくりにおける公民館の役割は今後ますます重要になることと思います。

これからも、地域生活に密着した活動を展開され、市民の皆さまに愛される公民館として発展されますことを祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。

年表

公民館の行事やできごと

社会・市のうごき

1958(33)

公民館設置
第1回公民館運営審議会

日本初の1万円札発行
東京タワー完成



1959(34)

公民館報第1号発行

ソ連、人類初の月面到着成功

1960(35)

浅沼社会党委員長刺殺
相模原市人口10万人突破

1961(36)

1962(37)

第1回婦人学級

東海村で国産第1号研究用原子炉に原子の火ともる

1963(38)

ケネディ大統領暗殺



1964(39)

東京オリンピック開催
東海道新幹線開通

1965(40)



昭和37年運動会

1966(41)

第1回ソフトボール大会

敬老の日・体育の日・建国記念の日が祝日に

1967(42)



1968(43)

郵便番号制発足
星が丘・千代田・横山新住居表示

1969(44)

東名高速全線開通
市庁舎竣工

1970(45)

光化学スモッグ発生
沖縄返還



1971(46)

日中国交回復
パンダ来日

1972(47)

星が丘・千代田青少年健全育成協議会結成
第1回地区文化祭
星が丘地区子ども会育成連絡協議会

1973(48)

オイルショック

1974(49)

狂乱物価
佐藤栄作ノーベル平和賞



佐藤栄作

1975(50)

ロッキード事件発覚

1976(51)

田中角栄前首相逮捕

1977(52)

有珠山噴火

1978(53)

第1回ふるさとまつり

羽田空港の国際線航空会社が成田へ移転

1979(54)

市民健康づくり運動普及員制度発足
(館長推薦により4名が委託を受ける)

横浜線、橋本駅まで複線化



年表

公民館の行事やできごと

社会・市のうごき

1980 (55)

教育講演会(早乙女勝元氏)
「ありがとう木造公民館」送別記念事業

1981 (56)

教育講演会(樋口恵子氏)
星が丘公民館新館落成祝賀会
星が丘地区自治会連合会結成

1982 (57)

新公民館オープン

1983 (58)

昭和58年～63年

☆学習文化・青少年☆

井戸端会議
子育て講座
おやこ釣り教室
教育講演会
高齢者学級
古典文学講座
子ども映画会
地域史編さん事業
手づくり新聞の作り方教室
夏休み映画のタベ
婦人学級

1984 (59)

☆体育・レク☆

ソフトボール大会
家族ハイキング
卓球大会
軟式野球大会
スケートの集い
盆踊り新曲講習会

1985 (60)

☆恒例行事☆

市民健康まつり
町民運動会
公民館祭

1987 (62)



1988 (63)



福井謙一京大教授にノーベル化学賞
あじさい会館竣工



あじさい会館

東京ディズニーランドが開園
戸塚ヨットスクール生徒死亡事件 戸塚校長逮捕
家庭用ゲーム機「ファミリーコンピュータ」発売
三宅島大噴火
フィリピンのアキノ大統領暗殺される
大韓航空機撃墜事件



ファミリーコンピュータ

中曽根首相が首相として戦後初の靖国神社参拝
グリコ・森永事件
新札発行(1万円、5千円、千円)
サラエボ冬季五輪
ロサンゼルス五輪



東京都に新両国国技館が完成
NTT(電電公社)とJTT(日本たばこ産業)が
民営企業として発足
日航ジャンボ機が墜落 520人死亡4人生存

イギリスのチャールズ皇太子とダイアナ妃が来日
男女雇用機会均等法が施行
土井たか子が初の社会党女性委員長に当選
NASAのスペースシャトル「チャレンジャー」が上空で爆発
ソ連チェルノブイリで原子炉爆発

エイズ 日本初の患者死亡
国鉄分割民営化 JRスタート
「大韓航空機爆破事件」大韓航空機が
ビルマ上空で爆発、金賢姫容疑者ら2名を拘束
相模川ふれあい科学館竣工



東京ドーム

青函トンネル開通
東京ドームが完成
瀬戸大橋開通
イラン・イラク戦争の停戦協定が結ばれる

年表

公民館の行事やできごと

社会・市のうごき

1989
(平成元年)

平成元年～平成5年

☆学習文化・青少年☆

囲碁・将棋のつどい
英会話教室
教育講演会
教養講座
親と子の天文教室
趣味の教室(てんこく)

新年の会

青年教室

陶芸教室

☆体育・レク☆

グランドゴルフ講習会
市民体育祭(夏・秋)
スローピッチ講習会
ターゲットゴルフ講習会
バウンドテニス講習会
バレーボール大会

☆恒例行事☆

市民健康まつり
町民運動会
公民館祭

1990(02)

1991(03)

1992(04)

1993(05)

1994(06)



平成6年～平成10年

☆学習文化・青少年☆

公民館のつどい
子育て講座
子どもまつり
しめ飾り講習会
初心者写真講座
新春お茶の会・新年の会
パソコン教室

☆体育・レク☆

インディアカ講習会
館区内ウォーキング
ターゲットバードゴルフのつどい
町民親善テニス大会

☆恒例行事☆

市民健康まつり
町民運動会
公民館祭

1995(07)

1996(08)

昭和天皇崩御 「平成」に改元

消費税制度が税率3%で導入開始

美空ひばり死去

横浜ベイブリッジが開通

アメリカでブッシュ大統領が就任

中国天安門流血事件、民主化運動弾圧

「ベルリンの壁」崩壊



横浜ベイブリッジ

大学入学センター試験スタート

天皇が即位

秋山豊寛氏日本人初の宇宙飛行

アメリカがスペースシャトル「ディスカバリー号」打ち上げに成功
東西ドイツが統一

イラクがクウェートを撤退し、湾岸戦争が終戦

バブル崩壊

東海道新幹線「のぞみ」が運行開始

毛利衛氏 宇宙へ



東海道新幹線「のぞみ」

皇太子、雅子さま ご結婚

東京都のお台場にレインボーブリッジが開通

アメリカでビル・クリントン大統領が就任

4月 生涯学習課設置(社会教育課と併設)

松本サリン事件 7人死亡

向井千秋さん宇宙へ

関西国際空港が開港

大江健三郎氏 ノーベル文学賞

ルワンダで内戦200万人が難民

南アフリカでマンデラ氏が初の黒人大統領に



関西国際空港

阪神淡路大地震

地下鉄サリン事件

11月 博物館設置

東京臨海副都心にゆりかもめが開業

イスラエル、ラビン首相暗殺



スペースシャトル「エンデバー」

1月 相模川自然の村設置

NASA のスペースシャトル「エンデバー」

若田光一 宇宙飛行士が乗船

薬害エイズ訴訟でミドリ十字社が謝罪、患者との和解が成立

三菱銀行と東京銀行が合併 「東京三菱銀行」が誕生

広島県の実験ドームが世界遺産に指定

ペルー日本大使公邸をゲリラが襲撃

年表

公民館の行事やできごと

社会・市のうごき

1997(09)

消費税が3%から5%に引き上げ
臓器移植法成立
介護保険法成立
温暖化防止京都会議開幕
東京湾アクアラインが開通
香港がイギリスから中国に返還
エジプトでテロ 観光客58人死亡



1998(10)



郵便番号が5桁から7桁に
日本初の火星探査機「のぞみ」が打ち上げに成功
インド、パキスタンが核実験

1999(11)

平成11年～平成15年

☆学習文化・青少年☆

お正月リースづくり
親子のほたる観測会
川辺の水生物観察会
国際交流事業
サマールーム開設
藤手芸クリスマスベルづくり
ボランティア講座
虫眼鏡で出かけよう
寄せ植え教室
ANA機体メンテナンスセンター
工場見学会
牛乳パック押し花
はがきづくり講座
☆体育・レク☆
アクアビクス教室
ニュースポーツ大会
ビーチボール大会
☆恒例行事☆
市民健康まつり
町民運動会
公民館祭

携帯電話とPHSの電話番号が11ケタとなる
青少年学習センター設置(平成10年3月青年の家廃止)
東海村で国内初の臨界事故



2000(12)

白川秀樹氏 ノーベル化学賞受賞
春の甲子園で東海大相模が初優勝
4月 社会教育課が生涯学習課と統合

2001(13)

「えひめ丸」米潜水艦に衝突され沈没
大阪府にユニバーサル・スタジオ・ジャパンがオープン
東京ディズニーシーがオープン
9/11 アメリカ同時多発テロ事件(9.11テロ事件)

2002(14)

小柴政敏氏ノーベル物理学賞受賞
田中耕一氏ノーベル化学賞受賞
小泉首相が日本の首相として初めて北朝鮮を訪問
住民基本台帳ネットワークが稼動
日本人拉致被害者5人が北朝鮮から24年ぶりに帰国
ユーロ圏12ヶ国で欧州単一通貨「ユーロ」が流通開始
自衛隊が東ティモールに派遣
4/1 公民館常勤職員1名引き上げ、公民館活動推進員を各館2名配置

2003(15)



日本郵政公社が営業開始
東海道新幹線品川駅が開業
地上デジタル放送開始
*各館に公民館運営協議会を設置(公民館運営審議会は廃止)
米英軍がイラク攻撃、フセイン政権崩壊



年表

公民館の行事やできごと

社会・市のうごき

2004(16)

平成16年～

☆学習文化・青少年☆

お料理教室

茶道体験学習

布絵本の読み聞かせ会

パソコンExcel家計簿講座

消防団体験と見学会

公民館の縁日&夕涼み映画会



2005(17)

☆体育・レク☆

スタディ&クライム

スタディ&ウォーク

☆恒例行事☆

市民健康まつり

町民運動会

公民館祭

2006(18)



2007(19)

2008(20)

5/18(日) 星が丘公民館創立50周年記念式典



小泉首相再訪朝、拉致被害者家族が帰国

山口県の養鶏場で鳥インフルエンザが発生

自衛隊がイラクへ派遣

東京都の営団地下鉄と成田空港が民営化

新札発行



地下鉄の新しい愛称《東京メトロ》

ロンドンで同時爆破テロ

愛知万博開催

4/1 全館館長代理及び公民館活動推進員3名体制へ

4/1 貸館における通年開館を全館で本実施

野口聡一宇宙飛行士が搭乗するスペースシャトル

「ディスカバリー」が打ち上げに成功

北朝鮮が日本海に7発のミサイルを発射

3/20 津久井町・相模湖町 相模原市と合併

北朝鮮が核実験実施

冥王星 太陽系惑星から除外

NY原油 77ドル突破

イラクのサダム・フセイン元大統領の死刑が執行

第1回東京マラソン開催

郵政民営化がスタート

年金記録問題

相次ぐ食品偽造問題(赤福・白い恋人・吉兆など)

3/11 城山町・藤野町 相模原市と合併



中国製ギョーザ食中毒事件

イージス艦あたご衝突事故

北京オリンピック開催

原油高に物価高





星が丘公民館

公民館事業

毎年開催しています！！

町民運動会

ふるさとまつり

市民健康まつり

公民館まつり

子供まつり

町民運動会

地域住民が一堂に会して、秋の一日をいろいろな催しで、楽しみながら、親睦・交流を深め、明るく親しみのある町づくりの推進を図る場とします。

平成19年9月の開催で、55回目を迎えた伝統ある公民館事業の最大なイベント行事であります。

プログラム 昭和55年第28回

- 1 100m走①
- 2 走り幅跳び
- 3 砲丸投げ
- 4 走り高跳び
- 5 小学生綱引き
- 6 ボール拾いせんべい食い
- 7 1500m走
- 8 ゲートボールリレー
- 9 かけっこ
- 10 綱引き (1次予選)
- 11 アベックボールけり
- 12 400m
- 13 綱引き (2次予選)
- 14 100m走②
- 15 来賓役員ボールけり
- 16 年齢別男女混合リレー
- 17 破鈴
(昼休み)

- 18 200m走
- 19 マリソン
- 20 親子競技 (綱越しボール交換)
- 21 綱引き
- 22 障害物競走
- 23 ケツ圧測定
- 24 アベック2人3脚
- 25 400mリレー (女子)
- 26 800mリレー (男子)



みんな元気！ さがみはら

プログラム 平成19年第55回

- 1 台風の日
- 2 砲丸投げ
- 3 ミニ綱引き
- 4 綱引き (1次予選)
- 5 グランドゴルフリレー
- 6 かけっこ
- 7 バスケットボールリレー
- 8 60m走
- 9 綱引き (2次予選)
- 10 年齢別男女混合リレー
- 11 破鈴
(昼休み)
- 12 スプーンリレー
- 13 天秤かつぎリレー
- 14 親子びん釣り競技
- 15 むかで競争
- 16 綱引き (決勝)
- 17 難関突破競争
- 18 400mリレー (女子)
- 19 400mリレー (男子)



市民健康まつり

市民が楽しみながら運動できる集いを設け、心地よい汗を流してもらうとともに、いつでもどこでも気軽にできるスポーツ、レクリエーションの紹介を行い、健康づくり、体力づくりの日常化をはかる。

おまつりの歴史は昭和50年に市内3ヶ所で開催されたのが始まりです。星が丘公民館主催としては昭和53年の「第1回ふるさとまつり」として開催し、現在は「市民健康まつり」と名前を変えて実施しています。

みんな元気
さがみはら



S55 市民健康まつり

健康づくりで
笑顔で

プログラム

平成19年

体力・健康・ゲーム

◎体力測定コーナー（8種目）

肺活量、反復横とび、握力、立位前屈、腕立て伏せ
垂直とび、閉眼片足立ち、ジャンプステップ

◎健康チェックコーナー

血圧測定、体スキャン、咀嚼力検査

◎ゲームコーナー（7種目）

ゲートボール、バウンドテニス、フラフープ、輪投げ
ストラックアウト、小なわとび・大なわとび
ターゲットバードゴルフ、ペットボトルボーリング

「楽しくストレッチ体操」

「指導：大沼公民館体育指導委員 小林尚子氏」

体力・健康・ゲーム



公民館まつり

公民館を利用しているおよそ50の団体、サークル及び地域の人々が日頃の活動成果を発表し交流を深めあいます。

第1回

昭和49年



良い出会い
重ねて趣味の輪をひろげ

34回

平成19年3月



子どもまつり

子どもたちが自ら企画し、ゲーム、手作り、模擬店、家族で楽しむ。
平成4年子どもセンターが開設されはじまった。

ぼくたち、
わたしたちが主役!!

● 公民館コーナー

工作・駄菓子・お茶会
絵画展・ゲーム・お料理

● 子どもセンターコーナー

ふれあい（ストラックアウト・老人会）
おばけやしき

19.11.25





星が丘公民館

各専門部の活動

学習文化委員会

体育委員会

館報委員会

保育委員会

ホームページ

青少年学社連携

学習文化

委員会

社会の変化に即応した地域課題、生活課題の学習、文化活動を進め地域住民の学習意欲の向上につとめます。子どもたちがいきいきと暮らす地域づくり、高齢者が積極的に地域活動に参加できる事業を企画実施します。

- **すすかけ学級** 高齢者を対象とした委託学級
その時代に即応したタイムリーなテーマをとりあげ
話し合いを主とした学級です。

2007年度のテーマ

“大人の寺子屋”



- **成人学級**
家庭・地域・社会の様々な課題を学習し心豊かで
より良い地域社会づくりを目指すための学級です。



2007年度のテーマ
世の中これから、
良くなる？
悪くなる？



公開講座
“格差社会と日本の未来”

- **家庭教育子育て学習事業**
意欲を引き出す話し方聞き方講座



- **弁護士 大森典子氏による講座**
国民投票と憲法改正



- **プロから学ぶ本格中華**



本日のメニューは・・・
老いも若きも
男も女も
トントン、ジュージュー

- **初心者デジカメ教室**

とにかく
撮る！撮る！



- **初心者パソコン教室**

始まりは
マウスと悪戦苦闘の数時間



- **年末年始の準備をしよう**
(年賀状・カレンダー作り)



体 育 委 員 会

体育委員会は、健康の維持・増進や仲間づくりを目的とした活動をすすめることを重点目標とし、誰もが気軽に楽しく参加できる公民館のスポーツ・レクリエーション事業の企画・実施。

●自治会親善ソフトボール大会

青空の下での



女子高生も参加し、男女問わずチームが一丸となって戦うソフトボール大会。出場チームも13チームに増え、この日、青空に吸い込まれていったホームランの数は36本でした！

19.5.20

●春のウォーキング

ぽかぽか日和の



初夏を思わせるような陽気の中、相模田名民家資料館・ふれあい科学館を見学、お昼を食べた後は、ぐるっと塩田の方を回って道保川公園まで足を延ばし、約11kmの行程をみんなで一生懸命歩きました。

19.4.15

●自治会親善軟式野球大会



初日が雷雨で延期になり、3日間に及ぶ大会となりました。自治会の男性陣が闘志を燃やしている姿を見ると、まるで大人の甲子園のようでした。

19.6

●自治会親善ビーチボール大会

選手の闘志が伝わる



日頃から熱心に練習が行われているだけあって、自治会親善とは思えないほど白熱した雰囲気が体育館に充満した熱い一日でした。

19.7.8

●卓球のつどい

雪やコンコン・卓球ピンポン



深々と雪が降積もる中、会場では軽快な卓球の音が響きました。

暖房も入っていない会場の中では、半袖になっている人たちもちらほらと。熱い冬の2時間でした。

●盆踊り新曲講習会

星が丘の夏に欠かせない



相模原市レクリエーション協会の小澤由紀子さんを講師に迎え行われた講習会。参加者は昨年の2倍以上。体育館には大きな大きな円ができました。新曲「花火音頭」では会場に大小さまざまな手花火があがりました。

19.7.21

館 報

委 員 会

年5回の発行。公民館の行事や各種サークル活動、地域の団体による社会教育活動など、館区内の様子や話題を地域住民に提供し、公民館への関心が高まることを目標としています。

昭和48年3月20日に第1号が発行され、現在（平成20年6月）で170号になります。その間、多くの地域の方々の協力や温かい励ましの言葉をいただきました。

まさに“星が丘公民館区の地域紙”と言えます。

●館報ができるまで

1

企 画

公民館で開催されるさまざまな活動及び地域の様子をタイムリーに伝えるために、日程と担当者を決めます。

2

編集会議①

取材内容の決定

3

編集会議②

取材者・取材日程の決定

4

取 材

声を集める・原稿依頼・写真撮影

取材日当日は、カメラを持参し記事に適したスナップを撮ります。ハイキングなど野外の事業には同行取材し、参加者の声なども積極的に取り入れるようにしています。

5

原稿作成

記事に書く・割り付け・写真選び

取材内容や写真など、決められたスペースに収まるようにレイアウトします。

6

編集・校正

表現や語句の訂正

原稿を読み合い（ここが一番緊張します）、不適切な表現や言い回し、語句などをチェック訂正します。読者の方々に取材の意図が十分伝わるよう努力しています。

これを繰り返し、最終校正へと漕ぎ着けます。

7

完成・発行

地域へ配布

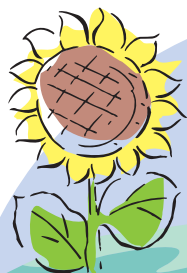
発行を終えると「ホッ」とし、まるで宿題を終えた子どものような心境になりますが、それも束の間…。すぐに次号の企画など、宿題が出されるのです。

次号に向けて
GO!



保 育 委 員 会

幼児をもつ保護者が安心して公民館活動に参加できるよう保育を担当し、
子どもたちの成長や発達を見守ります。



●夏休み親子工作教室

親子のふれあいの場として、毎年夏休みに開催している工作教室です。

親子が協力しながら一つの作品を完成できるように、保育委員は各テーブルに就いてお手伝いをします。

切って貼って色を塗って、個性豊かなそれぞれの作品の出来上がり！



●保育のクリスマス会

公民館保育を利用した人達に呼び掛け、未就園児を対象に行われるクリスマス会。

大きな絵本の読み聞かせ、エプロンシアター、そしてクリスマスソングの合唱を親子で楽しんだら…

リンリンリン・リンリンリン！

手作りプレゼントがいっぱい詰まった袋を背負ったサンタさんの登場に子どもたちは大はしゃぎ！



ホームページ

委員会

星が丘公民館の事業結果などタイムリーな話題を掲載し、公民館に興味を持ってもらえるような、地域の特色が生かされた、魅力あるホームページづくりを目指しています。

星が丘公民館のホームページは、地域住民の手によって作成されています。「公民館の良さを伝えたい」「たくさんの人に見てもらえるホームページを」という思いをホームページに込めて情報を発信しています。



地域の中から、委員を募集し、ホームページ作成の基礎から学んでいます。初心者の方も、上級者の方から教えてもらいながら技術を修得していきます。月1回の更新を目標に、レイアウトや掲載内容についての会議が開かれています。

星が丘公民館ホームページの歴史

平成16年



平成17年



平成19年



青少年 学社連携

心身共に健やかに育つ子どもたちの「生きる力」を育み、学校や地域
団体との連携を密にし、地域住民の積極的な活用と地域の特色をいかした事
業をすすめ地域の「教育力」を高めます。

学社連携事業

平成14年度よりスタート
学校の授業の一環として位置づけられて
います。講師は公民館で活動しているサ
ークルや地域の方々です。

●戦争体験教室



●星が丘小学校クラブ活動

- ☆囲碁・将棋クラブ
- ☆合唱クラブ
- ☆お茶クラブ



●茶道体験授業



●相模原の昔を 調べよう



青少年事業

●夏休み体験教室

- ☆バターロール作り
- ☆言葉遊び
- ☆茶道
- ☆絵手紙
- ☆舞踊
- ☆てるて姫伝説
- ☆すいとん作り
- ☆刻字
- ☆民踊



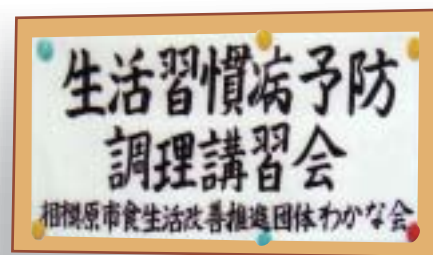
- ☆川辺の水生物観察会
- ☆お正月の遊びをしよう
- ☆子ども映画会（年3回）
- ☆お料理教室（年2回）
- ☆冬の星空観望会



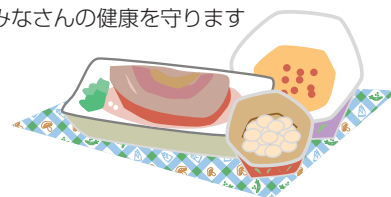
利用サークル・団体紹介

学習・研究

子育て広場推進事業	親子の集い・親睦
日本宇宙少年団 相模原分団	宇宙・天体
スカイキッズ	英会話
スターキッズ	英会話
Heart	英会話
Little Lights 英語育児サークル	英会話
相模原環境カウンセラー協議会	環境
星が丘リサイクルの会	環境・リサイクル
クレマチス	教育・時事問題
わかな会 相模原市食生活改善推進団体	健康づくり
はねかつら	古典文学
ななかまど	社会問題など
やっきの会	生活・環境・福祉など
クローバー	生活全般



わかな会 相模原市食生活改善推進団体
食生活を通して地域のみなさんの健康を守ります



やっきの会
平成19年創立40周年を迎えました
“やっきの会便り”を毎月発行し
会員相互の連携を図っています



学習・研究

さがみてるて姫の会	伝承「照手姫」の研究
カモミール	日本語
サワディー	日本語
笑ころネット	パソコン
創造舎	福祉
福祉を考える会 ゆずり葉	福祉
相和会	和菓子
サークルコパン	学習サークル
G連	学習サークル
レインボー	地域交流
千代田友愛チーム	千代田地区の調査及び訪問

学習・研究

コミュニティ保育 パンダの会	育児サークル
虹の会	育児サークル
8月母親会	育児サークル
母と子の会 スマイル・ママ	育児サークル
ひまわりくらぶ	育児サークル
ひまわり隊	育児サークル
フレフレPooh's	育児サークル
ママ&“ワン”だふるキッズの会	育児サークル
わんぱくキッズ	育児サークル



文月会（裏千家）

“和”を大切にながやかにおけいこをしています



コミュニティ保育 パンダの会

幼稚園に入る前の親子とのひと時を楽しんでいます



文化（生活・技術）

文月会	茶道（裏千家）
星が丘お茶の会	茶道（表千家）
あじさいクラブ	調理実習・健康づくり・手芸など
コスモス	手編み
健康を考える会	味噌づくり
みその会	味噌づくり



赤い実

一人ひとりの作品に鬼灯先生から俳画を添えてもらいます

文化（文芸・教養）

星が丘囲碁クラブ	囲碁
チビッ子サークル星の子	詩歌（漢詩・和歌）
相模原川柳協会	川柳
迷柳会	川柳
ほしが丘短歌会	短歌
赤い実	俳句

利用サークル・団体紹介

文化（美術・工芸）

絵手紙サークル さくら	絵手紙
絵手紙サークル 花みずき	絵手紙
相模原写真会	写真
写団ひばり	写真
フォトさがみ	写真
星が丘フォトクラブ	写真
照星会	書道
星光会	書道
清友書道会	書道
陽光	書道
桂	書道・刻字
刻字の會かすみ	刻字
パレット	絵・造形
アトリエレモン	水彩画
ちぎり絵の会	ちぎり絵
花舞 合歓木	生花・詩吟
花季香	フラワーアレンジメント
フラワーWiz星が丘	フラワーアレンジメント



絵手紙サークル
さくら
絵手紙って奥が
深いんです



怜扇会 もうすぐ発表会 真剣です



陽光
一筆に心をこめて

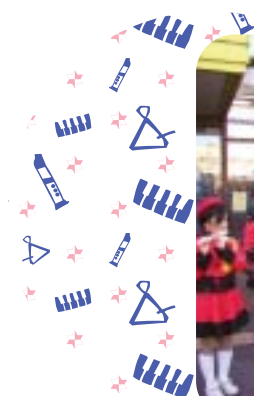


文化（芸能）

吟友会	詩吟
柴胡教場	詩吟
好友会	民謡
星友会	民謡
竹謡会	民謡
星が丘謡曲同好会	謡曲
和の会	舞踊
怜扇会	舞踊
二藤会	新舞踊
さとゆき会	民謡
星が丘4丁目はやし連	祭囃子
祭り囃子愛好の会 相模粹鼓会	祭囃子
さがみ葵連ハッピー会	祭囃子・阿波踊り
演劇愛好会	演劇
梅ふじ会	津軽三味線
星が丘琴の会	大正琴



星が丘4丁目はやし連
さあ、夏祭り本番です



星が丘鼓笛隊 子どもまつりにて・・・
おまつりではいつも大人気です

サウンドウェーブ

あ・うんの呼吸で息ぴったり レパートリーも豊富です



ギターサークル マドリード
クラシックギターの音色に酔いしれて



コール・ブルメリア
創作オペラ「道行」より
小栗判官と照手姫のラストシーン。稽古にも熱が入ります。

文化（音楽）

S.S.E.	楽器演奏
サウンドウェーブ	楽器演奏
相模原市民交響楽団	楽器演奏
チームニャー	楽器演奏
生演奏を楽しむ会	楽器演奏
clacon5	アンサンブル
県相クラリネットアンサンブル	クラリネットアンサンブル
フリーダムクラリネットアンサンブル	クラリネットアンサンブル
神奈川サクソフォン・アンサンブル	サクソファンアンサンブル
アンサンブル・パフェ	マンドリンアンサンブル
ギターサークル マドリード	ギター
木の響	ギター
ぼんず	ギター
コール・ブルメリア	コーラス
すきっとさん	コーラス
童謡・唱歌 なかよし	童謡・唱歌
星が丘童謡・唱歌を歌う会	童謡・唱歌
アウロス ウィンド オーケストラ	吹奏楽
星が丘鼓笛隊	鼓笛



葵連はっぴ会
阿波踊りでにぎやかに



さとゆき会
全国各地の民謡を踊ります

利用サークル・団体紹介



あじさい会
流れるようなステップで
足元も軽やか
楽しく優雅なひとときです

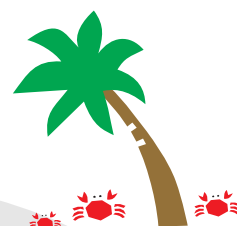
“Shall We Dance?”



たんぽぽバレエ
レッスンはのびのび
笑顔がいっぱい
星が丘の希望の星です

体育・レクリエーション

あじさい会	社交ダンス
ガーネット	社交ダンス
サークルコスモス	社交ダンス
さくらサークル	社交ダンス
すずらん会	社交ダンス
スターヒル	社交ダンス
KアンドL	社交ダンス・体操
ハッピーダンスクラブ	スポーツダンス
ハッピーダンスマシン	スポーツダンス
ひばり同好会	スポーツダンス
もみじ	スポーツダンス
ロンデ	スポーツダンス
ICHIGEKI	ダンス
TRM	ダンス
あすか	ダンス
あずさ	ダンス
健康美容ダンス	ダンス・ストレッチ体操
ストレッチたんぽぽの会	ストレッチ体操
つくし会	ストレッチ体操
菜の花会	ストレッチ体操
神奈川高齢者体育会星が丘教室	ストレッチ体操・歌
健康体操ゆいの会	ストレッチ体操・ダンベル体操・ダンス
ストレッチサークル ピュア	ストレッチ体操・ダンベル体操・ダンス
ボイスの会 てるて	ストレッチ体操・発声法・説経



ヘモレハワイアンフラ・
ホクラニ
やさしいほほえみとフラの調べ
ゆったりした空気が癒しのときを
作り出します



中央YM

小気味よい打球音を響かせ、所狭しとボールを追いかけた後の汗は最高です



なるこスマイル

力強いなるこのリズムが日本人の心を呼び覚まします

YAMA☆ARASHI レクリエーションなど

BBエクササイズ エクササイズ

ヘモレレハワイアンフラ・ホクラニ フラダンス

EMPEROR ブレイクダンス

フォークダンス ぶらんこ フォークダンス

たんぽぽパレエ モダンパレエ

なるこスマイル なるこ踊り

ヨガサークル エポック ヨガ

蓮華の会 ヨガ

県立相模原高校卓球部 卓球

卓球愛好会 卓球

中央 YM 卓球

フライデーズ 卓球

星が丘スタービクトリーズ後援会 ミニバスケットボール

相模原市少年野球 星が丘支部 少年野球

上溝エストレラ サッカー

空手道藤和会等心塾 空手

流雲館 空手

星が丘剣友会 剣道

フラッシュアーツ 古武術

健康武道サークル 武道

太極拳倶楽部 太極拳

愛気乃会体道健康法 動功術・足圧・整体運動

ユークリー山の会 ハイキング



フォークダンスぶらんこ

手と手を取り合い心をひとつにするダンスで、いつまでもはつらつ



太極拳倶楽部

型の1つ1つを深い呼吸とゆったりとした動きで心身ともにリフレッシュ

今日も星が丘公民館はフル活動！

催しものご案内				
室名	午 前	午 後	夜	間
小会議室	地域交流講座			
茶室	星が丘公民館	星が丘公民館	星が丘公民館	
料理実習室	星が丘			
大会議室	フリースペース	フリースペース	あすこ	
和室	和室	和室		
保育室				
コミュニティ室	星が丘公民館			





星が丘公民館

原点を探る

声

公民館の思い出



星が丘地域の原点を探る



星が丘の誕生

かつて広大な原野と山林であったこの星が丘地域。すでに栄えていた上溝に隣接しながらも、人は住まず自然の宝庫でした。

この自然の宝庫の地が眠りから目覚めたのは昭和17年、折りしも太平洋戦時下、陸軍造兵廠従業員の住まいとして、県営住宅が建てられ90世帯が入居。

その後県営住宅の建設が進み、民間の住宅やアパートなども建てられ、終戦時には、550戸を超える星が丘住宅地が形成されたのです。

雑木林と草の生い茂った新天地「星が丘住宅」、幸いにも電気は入居と同時に入り、一年後には水道が敷設されました。しかし深刻なのは燃料でした。そこで造兵廠内で使っていた都市ガスを導入する事となり、ガス管掘りや本管埋設溝掘りの重労働は住民の勤労奉仕によるもので、この大事業を達成したのは昭和24年3月でした。

他の地域で実現し得なかったこの偉業は、星が丘住民の強いまとまりと努力の結晶でした。

地名誕生

はがき一枚、魚一匹を買うにも上溝まで歩いて行く不便、開墾をしながら食糧を確保する労働の毎日。こんな時代でしたが人々は互いに助け合い、心のつながりは強いものでした。

当時、この地域は「県営」と呼ばれ、町名を持ちたいという住民の願いで、昭和18年11月、上溝にあった相模原町役場において、「星ヶ丘」と決定されました。

地名誕生の由来は、住民のほとんどが勤めていた軍の施設の「相模陸軍造兵廠」の星印と、高台にあって満天の星の美しいところから命名されました。

その後、昭和43年新住居表示により「星ヶ丘」は「星が丘」と改められました。



自治会の発足

星が丘

戦時中、星が丘住民の活動組織であった常会、隣組制度は、戦後間もなくGHQの指令によって解散されましたが、その後も行政からの広報連絡や住民の交流の組織としての形態は残っていました。昭和20年後半になると、少しずつ住民の暮らしにも活気が見られ、住民の意思をまとめる自治会結成の動きにもつながってきました。

昭和30年春の市議会議員選挙において、地域推薦の故高木肇氏の当選もあって地域づくりへの気運が高まり、自治会結成が急速に進められていきました。

組織は、旧常会単位の東・西・南・北・仲の5自治会で、南を除く4町の発足は30年秋、南町は、31年に発足しています。

千代田

かつて山林であった千代田地域は、戦後開墾して農地となっていました。この頃地名はなく、上溝5千何番地という地番で呼ばれていました。

昭和30年代後半から住宅が建ちはじめ、多くの人が住むようになりました。やがて幾つかの住宅のまとまりが出来、自治組織を作るため組織毎の名称が必要となり、昭和38年、新町、後に住吉町、41年に2・3・4・5丁目が新星町と町名が変わり自治活動を行うようになりました。

その頃、市では新しい住居表示が進められ、各地区代表により数回にわたる検討会を開き、千代田・若松・高松のうち「千代田」に決定。

昭和43年7月、1丁目から7丁目に住居表示がなされました。そして新しい自治会結成に取り組み、昭和44年4月、それぞれの自治会が一斉に発足しています。

横山

横山地域はもともと山林原野で、固有の地名はありませんでした。旧農林試験場（現横山公園）から相模原高校あたりにかけては、通称「長久保」と呼ばれていました。

昭和39年より県営団地や分譲住宅の建設、宅地造成が行われ、昭和40年春から入居がはじまりました。

昭和42年市は、この地域の住居表示を行うため住民に町名について諮問しています。この時「横山」という町名が提案され、市史編集専門委員で新住居表示審議委員でもあった、故座間美都治氏から横山の歴史をうかがい、この地域が横山丘陵に続くということから、満場一致で「横山」と決定しました。

当時、横山地区で星が丘公民館区に属していたのは、13の自治会でした。（昭和61年4月1日現在）

星が丘地区自治会連合会

星が丘地区は市の行政区域の中央地区に属しており、以前は清新、中央等6地区で中央地区連合自治会を組織していました。しかし人口の増加に伴い、各公民館区単位の組織に分割し自治会活動の活性化をはかることとなり、昭和56年4月、星が丘地区自治会連合会が結成されました。この会は、住民の親睦、関係機関や団体との連絡協調、福祉の増進、市政の周知と住民の声を市政に反映させるなど、自治会活動の振興をめざしています。

また、この会には交通、衛生、防犯の部を設け、各自治会との連帯の向上をめざすことを目的としています。

星が丘の地域の原点を探る

星が丘小学校とPTA

星が丘地域に住む人たちが増えている昨今、気が付けば辺りはマンションや戸建がビッシリ。

少子化の進むなか今や児童数が全国一多いといわれる星が丘小学校。人と人との繋がりが希薄になっている社会のなかで子どもの人間性を育み、学校教育の「核」としてその使命を発揮している星が丘小学校の原点を探ってみました。



星が丘小学校独立開校

昭和22年4月、新学制（6・3・3制）の発足により、戦後の義務教育制度が始まりました。

星が丘地域の児童はこの制度の中、戦中戦後は上溝小学校へ通学していましたが引揚者や疎開による転入者で児童数が増え、分校設置の動きが起きてきました。

翌23年10月、上溝小学校の分校として星が丘小学校が開校しました。（児童数363名）

校舎は児童の父母や地域関係者の積極的な働きかけで元陸軍兵器学校の校舎の払い下げを受け、移築。

わずか半年後の昭和24年4月15日、相模原町立第11番目の小学校として独立開校しました。

上溝小学校への通学風景

星が丘小学校が創立するまで子どもたちは上溝小学校へ通学していました。

当時の子どもたちにとって上溝までの道のりは遠く困難なことでした。通学路は特になく学校までは20～30分。砂利が県道の中央に敷かれているだけで夏は埃、冬は霜解けで下駄の鼻緒が切れ、はだして枯れ草の上を歩いて帰ったこともありました。

校旗・校歌の制定

創立以来、十余年の歴史を重ねると卒業生も千百名余りにも及び、卒業生やPTA・地域各団体から母校の校風を象徴するような校旗・校歌の制定の希望が高まりました。昭和37年1月に準備会、2月には学区をあげて「校旗・校歌制定促進委員会」を組織。

校旗は上溝小学校を参考に、校歌は一般募集も検討しましたが最終的に作詞を勝承夫氏、作曲を平井康三郎氏に依頼し、同年4月15日の開校記念日にお披露目されました。

粗末な校舎

●淵野辺にあった陸軍兵器学校の建物の一部を移築したその場しのぎの仮校舎は障子張りで山の分教場そのもの。隣で勉強しているのが筒抜けで、せめてガラスにと要請したものの町の予算がなかなか下りなかった。（星小30周年座談会より）

●夏は暑く、障子をはずすと互いの教室が向かい合うため「ひょうたん教室」と呼びました。雨が降ると雨漏り、授業中に机を移動。冬は大きな火鉢に炭が三、四個のせられているだけ。吹きさらしの冷たい風が校舎に入ってくる中で、子どもたちは我慢して勉強をしました。（地域史・出会い原稿より）

PTAの誕生



昭和21年、アメリカの示唆を受け、日本政府の推奨により全国の小・中学校は次々にPTAづくりに着手しました。

星が丘小学校では教育委員会の指導の下、昭和24年、独立開校と同時に「子どもの幸せを目的として、父母と教職員が対等の立場で参加、協力し合う団体」としてPTAを結成。開校間もない学校施設の整備や校舎の増築運動の中心となって活動を始めました。

イチョウの木

星が丘の秋の風物詩となっている銀杏の収穫作業。銀杏の木は、風除けのため昭和29年、当時のPTAの手によって植えられたものです。その頃、淵野辺にあった軍関係の工場（現・青山学院大学）にあった木を移植したもので、大型トラックに2、3本しか積めない程大きくPTAの勤労奉仕作業が何日も続きました。

収穫された銀杏はPTAの貴重な活動資金となり、今も昔も児童に還元されています。



広い校庭誕生の背景

昭和29年、校舎増築に伴い校地の拡張が始まりました。拡張予定地が上溝の人たちの私有地だったこともあり容易に捗りません。夜を徹しての交渉で代替地を吞んで頂いたという経緯があります。

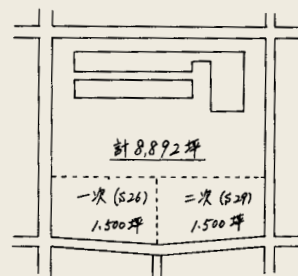
学校の沿革史は、この土地提供者の思いを「忍び難きを忍び、絶え難きを耐え、捨て難きを捨てたる心情、これひとえに教育に深き理解の賜と思惟す。」と記しています。



校庭拡張に伴う耕作権放棄のこと

当時、南町の国有地農地の小作者450名が招集され、校地拡張のため小作権を放棄するよう協力を求められ論議を重ねました。野菜畑がたとえ30坪であったとしても生活設計の一役を担っているので良い答えを出す訳にはいきません。

何回も会合を重ねようやく学校の為ならばと自発的に放棄する坪数を申し出ました。



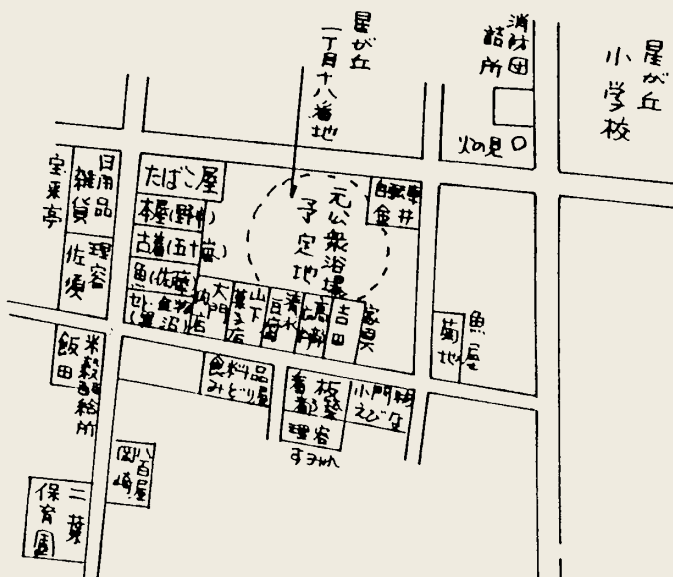
星が丘の地域の原点を探る

商店街

星が丘地区

ほとんどの生活物資を上溝の商店街に依存していたこの地域でも戦後2、3年たった頃より、家の軒先などを改造して魚、肉、野菜、豆腐、駄菓子などを扱う商売をはじめの人や、行商をはじめの人が見られるようになりました。

この商店主達が当初「星友会」という連絡団体を作り、昭和24年商工連盟に発展していきました。その後、商店の発展と住民の利便を計り、住宅の中心部（現星が丘1丁目）の公衆浴場予定地を借り受け、昭和24年の暮、間口二間、奥行三間のマーケット9店舗を開店しました。



千代田地区

千代田地域には、商店が少なく星が丘、上溝、西門等へ買い物に行っていました。

昭和40年後半になると、スーパーマーケットが誕生、買い物も大変楽になりました。この頃、オーケーストア、丸正、その後富士見町にヨークマート、等大型スーパーが誕生し活気あふれる地区になってきました。



横山地区

昭和40年頃、市役所通りと横山2丁目、県立相模原高校までの通りに「高校通り商栄会」が生れ、その後県営住宅の完成とともに人口も増え「横山商店会」「横山第一商店会」が結成されました。この商店会は、団地住民のために県が店舗付き住宅として分譲したもので、入居にあたっては、米、酒類、野菜、魚、肉、菓子等の販売を指定し、一般公募でした。



まつり

星が丘地区

最初の夏祭りは、昭和22年7月27・28日、上溝の夏祭りに併せて行われました。その年の秋、丸崎より神輿を譲り受けました。子ども神輿は、造花で飾った樽神輿や、他の町内から借りた神輿で祭りを盛り上げました。神輿の安置所は、現公民館が建てられるまで、公民館の南西角に丸崎方面へ向けて建てられました。



星が丘の大人神輿



公民館の前にあった星が丘神輿安置所

神輿には「明治9年9月吉日 藤原高光作」と銘があり、白木づくりで素朴でしたが今では得難い貴重なものです。

千代田地区

昭和44年頃より、千代田地区では「故郷づくり」の話題が持ち上がりました。その一つとして昭和44年8月第1回「千代田灯籠まつり」、お正月には「どんど焼き」が盛大に行われました。その後、空地の減少で合同の祭りができなくなり51年より各自治会による神輿の巡行に変わりました。「千代田音頭」もつくられ、盆踊りと共に現在も続けられています。



千代田の灯ろう祭り

横山地区

商店街のにぎわいと共に、子どもを中心とした夏祭りが行われるようになりました。最初は、手作りの樽神輿でしたが、昭和30年頃各町会で資金を積立て、神輿を揃えるようになりました。また、盆踊りも盛大に行われ住民の交流も盛んになりました。



盆踊り

星が丘公民館・50年のあゆみ

公民館の誕生



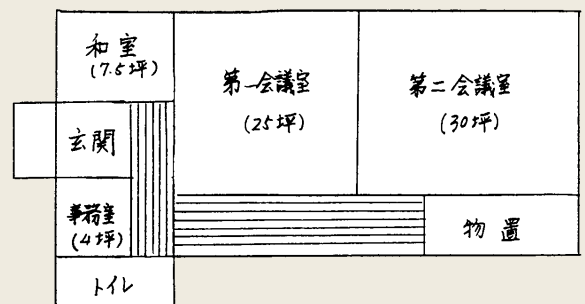
昭和30年ごろより地元の市議会議員を中心とした公民館設置の動きが出始め、「公民館兼講堂促進委員会」が発足。昭和33年12月末には、当時の大沢小学校にあった旧校舎を移築し、改築と塗装をほどこして翌年1月1日、一応の完成を見ました。

幾年も拠り所が無く活動してきた住民は、空いた講堂の一部を使用して新しい活動を目指すことになりました。

公民館専用として使用

昭和49年春、児童図書館が本校舎に移り、漸く公民館専用として使用できるようになりました。この建物は、玄関を挟んで両側に二つの小部屋があり、片方を事務室に、一方は畳を敷いて和室として使用。講堂の部分は30坪と25坪の部屋に仕切られていましたが、そのまま二つの会議室として整備され、会議はもとより、学習など全ての活動に使用されていました。広さも十分あり卓球の練習や民謡、フォークダンスなどのレクリエーション活動などにも使用。和室は小規模な会合や囲碁将棋の集い、時には婦人学級の際の保育室などにも利用しました。

建坪 91坪 (300㎡)



公民館活動の
あれこれ



賑わいを見せた文化祭

昭和46年11月20、21日両日に亘り星が丘小学校体育館で初めて行われました。地域に伝わる文化をより身近なところで発表し、日常の暮らしの中に取り入れるきっかけづくりを目指しました。

昭和50年、民謡、詩吟、民踊、さらに52年よりコーラスなどのサークル誕生に伴い、文化祭は年々賑わいを見せ地域に定着してきました。

独立館として発足した昭和57年からは、従来の展示及び芸能発表に加え、公民館活動から生まれたサークルや地域団体の活動発表をも含めた総合的な文化祭へと拡大、発展。文化祭はこれ以降、住民によって実行委員会を組織、運営されるようになり、昭和60年からは名称も「公民館まつり」と改称し毎年3月に行うようになりました。

ありがとう！木造公民館



木造公民館は、大沢小学校として建てられていたものを星が丘に移築、学校教育の施設とし、その後地域の社会教育の場としての使命を果たしました。

昭和56年3月29日、木造公民館に感謝する送別記念事業を盛大に行いました。この事業を行うにあたって、両会議室の間仕切壁を取り除き、講堂本来の姿に戻して実施。さすが600から700名の児童を収容できたといわれる広さに驚きました。ミニ体育館としても十分使用可能な建物でしたが、新館建設のため取り壊されることになりました。



展示場づくりの苦労話

会場づくりということで集ったが、何を使ってどのような会場にするか、いろいろの意見が出て構想が出来るまで大変であった。

新しい体育館のために釘を打つことは出来なかった。結局は学校の古い机や椅子を積み上げ、針金で固定するより方法がなかった。夜のことで、不足のベニヤ板なども買うことが出来ず、知り合いの大工さんから分けて貰ったり、道具を取りに行ったり、大変な騒ぎのなかで夜中までかかって会場づくりが行われた。それでも、翌日どうやら展示出来た会場を見て、苦労したことも忘れ嬉しかった。

(地域史・出会い原稿より)

現在の公民館建設と開館

昭和56年5月18日、旧建物が解体。整地が行われたのは7月、新館の建設は順調に進み、3月半ば竣工。(施設平面図はP45)

玄関前庭を広く取り、ひときわ目立つ「すずかけ」の大きな木はそのまま残しました。裏側には星が丘小学校に続いており、活動には申し分の無い条件の整った中、住民待望の新館落成。3月21日、新館へ移り、備品の搬入等開館への作業が進められました。



この欄は星が丘公民館に長期に亘って関わってこられた方や、此处で育っていった方、現在活動されている方、また、元公民館職員など、幅広いジャンルからの寄稿文と、インタビュー形式になっています。

出合いの場としての公民館

古典文学サークル「はねかづら」

講師 根本 萌騰子



星が丘公民館とのおつきあいは今年で25年になります。最初は公民館主催の古典文学講座でした。そのとき古典文学に興味を持っている人が星が丘にこんなにもたくさん住んでいるのだ、とびっくりしたのを覚えています。そのあとを継いだ古典文学を読む会「はねかづら」の講師をしながら、時には成人学級の講師もつとめて現在に至りました。

「はねかづら」では、万葉集からはじまって月1回の例会で古典を読み続け、現在は源氏物語の「夕霧の巻」に入りました。この会が4半世紀も続いているのは、古典を読むおもしろさと同時に、源氏物語などの日本の古典を読みながら、みんなでおしゃべりする楽しさがあったからでしょう。

現在、インターネット、メールなどのように相手の顔が見えない、また匿名の情報社会ができていますが、それに対して、公民館での読書会ではお互いの顔を見ながら個性的に話せることが楽しく、本来の人間らしい交流ができます。公民館があって、そこで「ひと」が知り合うことができるのは、たいへんすばらしいことであると考えます。

だから公民館は、人々の出合いの場所、対話の場所であるという大きな使命をこれからも維持して欲しいと思います。

公民館活動推進員として

元星が丘公民館活動推進員 堀田 正憲

平成14年から星が丘公民館に勤務して瞬く間に5年の歳月が流れた。50周年を迎える星が丘公民館に一時関わることができたことは私の生涯の忘れられない経験になった。

30数年民間企業に勤めていた私は、公民館とは全く無縁で、そこが社会教育施設であることすら知らずに飛び込んだ世界だった。

公民館では、一年目こそ館報と体育事業を担当したが、在籍中の五年間ずっと体育事業を担当させてもらった。初めての事業が「春のウォーキング」で、何も分からずに資料づくりに四苦八苦し、体育委員さんたちと一緒に歩いたことや、お昼に参加者の用意した手料理を頂いたことなどを今も思い出す。こういう地域とのふれあいがあったのだと…。

私は担当事業を通して、この地域のまとまりを感じた。それは、50年の歴史が築いて来たものと言えるが、この歴史もこれから新しい世代に引き継がれていくことと思う。



青年教室を経て「HANAKO」へ

横山3丁目 秋山 豊

昭和57年から2年位夜間代行員をやっていた。西東主事から若い人達で何かやろうと声が掛かり、青年教室が開かれた。最初は「独身男女のための料理教室」、講師は磯先生。

その青年教室から「HANAKO」というグループが誕生した。名前の由来は「ハミダシ、仲間割れ、子供会」。そのグループでハイキングやキャンプをよくやった。

会社勤めが始まるとあまり参加が出来なくなったが、ある夏、蓼科でのキャンプに誘われた。皆の後から差し入れの肉の塊10kgを担いで、中央線とバスを乗り継いで行った。今のように携帯電話があるわけではなく、よく皆のところに辿り着いたものだと思う。

一緒に皆で何かをやるのが楽しくて仕方がなかった。そして今でも声を掛ければすぐに集まる仲間「HANAKO」に出会えたことが公民館での一番大きな収穫だった。

40歳代半ばを過ぎ、また、公民館事業に参加できたらしいなと思っている。



地域活動を通して



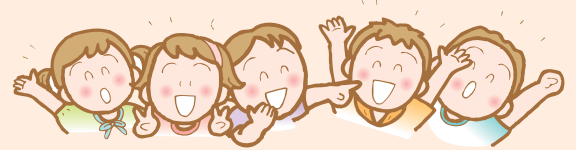
千代田5丁目 島根 裕志

平成13年に自治会の役員が回ってきて地域活動を認識した。長男が小学校へ入学したのを機に会社がフレックスタイムだったこともありPTAの役員を受けた。そのお蔭で町でも知った顔が増え挨拶を交わすようになった。

子供は自分の所有物ではなく（他人の子も）地域の財産だと考えている。大人が繋がれば子供も繋がると思う。千代田5丁目では、かつての親の世代が神輿や山車を手作りするなど、頑張って子育てに良い環境を作ってきた。今は担ぎ手を探す時代になり、青年部がネットで神輿を担ぐ人、カブト虫を捕りに行く人、スキーを楽しむ人などの仲間づくりをし、今、その輪をさらに広げていくために、地域で出来ることを積極的に取り組んでいる。

公民館では成人学級に関わり、様々な年代の人達と勉強したいテーマを話し合った。その中でいろいろな意見があることに驚き、自分の考えを見直す機会を得た。

公民館は地域の要で、勉強したい人は何時でも誰でも集える素晴らしい場であると思っている。



素晴らしい出会い



星が丘1丁目 丸山菊二郎

私は昭和58年、65歳で定年退職をし、その年、市の広報で「シルバーダンス初心者講習会」を知り応募、それが社交ダンスとの出会いとなりました。当初ステップなど右も左も分からず困りましたので、妻と相談し「シルバーダンスあじさい会」を立ち上げ、公民館の大会議室をお借りして練習することにいたしました。それまでは体育館で練習していましたので、冬は寒く夏は汗が滴るようでした。公民館は冷暖房完備、以前に比べれば「天国と地獄」の感がいたしました。

また、「高齢者学級」も平成元年より妻と参加し楽しい時間を過ごしました。

今年2月に90歳となります。思い返せばいろいろな方との出会いがありました。そして何事も妻と一緒にやって来られたことが、一番幸せだと思っています。



星小の子どもたちと公民館（学社連携）

星が丘小学校教諭 高橋 健司

星が丘小学校の生徒が、教科書の中で学習する課題をさらに深めるため、星が丘公民館を通じて地域の方々から体験談をお聞きしたり、いろいろな事を教えていただいています。

例えば、毎年6年生になると戦争を体験した人から当時の暮らしや様子を聞かせていただいています。今は核家族が多く、戦争体験の話を聞く機会も少ないので、大変嬉しく思っています。また、室町文化を学ぶところでは、茶道のお点前などを体験させていただいています。



クラブ活動として歌の指導や茶道・囲碁・将棋なども公民館のサークルの方々に教えていただいています。子どもたちもこのような触れ合いを通して地域の一員としての自覚も生まれ始め、町民運動会や市民健康まつり等で放送係や、記録係として参加し、協力しています。

星が丘小学校では夏休みに入っすぐ、三日間「チャレンジ広場」を企画しています。例えば、「いい汗かこう」「百人一首」「応募ポスターを描こう」「ウインドカーを作ろう」等実施してきました。

今後地域の方にも参加していただけたらと思っています。



公民館で「人が育つ」

元星が丘公民館職員 金子 浩

私が公民館で感動したのは、「人は育つ」ということであった。子どもだけでなく、大人も公民館事業を通じて新しいことに気付き、自分自身の次のステップに向かっていく…、それは「金額」や「点数」では表せない、かけがえの無いことだ。

改めて考えてみると、私はその瞬間を見たいがために事業を実施していたのかもしれない。

地域の方の想いや願いを少しでも実現できるように何度も話を聴き、こちらも「担当する事業を通じて、星が丘をこういう地域にしていきたい」というビジョンを語り、一緒になって事業をつくり上げていた。こうして出来上がった事業は一つ一つがいとおいしい、試行錯誤の末みんなで喜んだりがっかりしたことも今では大切な思い出である。

そして、そんなやりとりを通じて、何より私自身が地域の方に育てていただいたのだと感じている。

星が丘公民館には、これからも地域の方と職員がお互いに夢や熱意をぶつけ合うなかで、人を育み地域を作る拠点としての役割を果たしていった欲しい。



星が丘地域包括支援センター

主任ケアマネージャー 村山 伸明

星が丘地域包括支援センターは星が丘公民館区にお住まいの主に高齢者にかかわる保健、福祉、介護の「総合相談窓口」です。また「権利擁護」「介護予防」に関する事業等を行っていますが、重要な役割の一つとして地域福祉ネットワーク作り「みんなに優しいまちづくり」を推進することがあります。

「優しいまち」ってどんなこと？漠然として判りづらいかも知れませんが、一昔前は当たり前であった「地域の人の輪」のことではないでしょうか？無関心が社会的な問題となって久しい昨今、地域の皆さんが「集い」「ふれあい」「思いあう」こと、それはまさに公民館が地域で果たす役割と重なることだと考えています。

現在、支援センターでは地域の老人会のグループに健康体操を指導したりしています。また、公民館を会場として「転倒予防教室」や「総合介護予防教室」等の講座を数多く開いています。

今後も、自治会、老人クラブ、民生委員、ボランティア団体、そして公民館等と協力、連携していきますので、皆さまよろしく願いいたします。



子育てサロン

子育てサロンは、公民館の和室2間を開放し、子育てをしている親同士のふれあいを図ろうと民生委員さんが主体になって運営しています。

おもちゃで遊ぶ子の様子を見ながら、お母さん方の会話や仲間づくりも期待していただけるということです。会場に行き、お話を聞いてみました。

お母さん(A) 田名からきました。雨ばかり降っていたので今日は嬉しいです。インターネットを見てあっちこっち行っています。ここはおもちゃが多いですね。

お母さん(B) 小学生の時、クラス会などで公民館を利用した事があります。家が近いので来月も来ます。

お母さん(C) お世話してくださる人の中に昔の図書室のおばさんがいて驚きました。



小学生の頃、よく本を借りに来ていましたが、今は子どもを連れてサロンにきています。

お母さん(D) 子どもが二人居るので歩いてこられる距離なので(星が丘1丁目)助かります。

お母さん(E) 自分の子がハイハイしているのを見て、足が変だと思いましたが、サロンで他の子も同じだと分かり安心しました。バギーでこられる場所で嬉しいです。

保育士さん(二葉園) 今のお母さんは自分の行かれる場所をネットなどで必死に探しています。そんな中、地域に集える場所があることは心強いことだと思います。最初は硬い表情でも時間が経つと、とても良い笑顔になってくれます。



図書室利用者



 昭和57年に公民館がオープンした時から図書室を利用しています。一ヶ月に約3～4冊借りているので、もう何冊位になったでしょうか。私は主にノンフィクションを読むのですが、本を誰が選ぶのか知りませんが、何時行っても読みたい本があって嬉しく思っています。最近、たまに孫の本を借りることもあります。(70歳代 男性)

 小さい頃は絵本を借りていましたが、今は漫画を借りています。(6年 女子)

 子供が寝る前に読み聞かせる絵本を借りに来ました。多い時は10冊位になる時もあります。

(30歳代の母・0歳・3歳児)

 昼休みも利用できるようになって良かったです。(サークル利用者)

 読み聞かせ用の本を借りています。絵本から児童書までいろいろあるので助かります。

(主任児童委員)

『星が丘公民館の思い出』



前館長
(平成7年7月～15年4月)
金子 勇



元星が丘公民館運営審議会委員長
元星が丘地区自治連会長
小川 七郎

原点をみつめて

50周年の実績を踏まえつつ、ここに記念誌を発行されますことは、誠に意義深く、大変喜ばしいことと存じます。

私が星が丘公民館に在職していた時期に、社会教育法の一部改正が行われ、公民館運営審議会の必置規制が廃止され、任意制に変わりました。更に家庭教育の向上を図るための事業、講座や集会などを開催することにも及びました。このことは当時の社会情勢、特に子どもたちを取巻く生活環境が変化しており、いじめや幼児への虐待など見過ごしにできない状況もあり、さらなる一層の充実発展を求めたものと思われます。急激な社会変化に伴い、さまざまな改革が推進されるなか、相模原市においても行政改革が行われ、その一環として、地域に根ざした公民館の在り方について見直しが行われました。職員体制として活動推進への切換えや運営協議会の設置などが検討され、これからの公民館はどうあればよいのか改革への期待と不安の中で模索した日々が甦ります。

いままで公民館が生涯学習の拠点として、果たしてきた役割は大きいものがあります。これも役員・委員さんのたゆまざる努力と館区内住民からの暖かい支えによるものです。改革が進んでも未だ多く課題は残るものです。この節目を機に原点を見つめて、一層の充実発展を期待いたします。

輝かしい地域社会の構築を！

星が丘公民館が開館より着実な歩みを重ねて、ここに50周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。そして、これを機にこれまでの軌跡をまとめ、記念誌を刊行されることに一つの節目として非常に意味のあることと思います。

星が丘公民館が開館した明くる年に星が丘3丁目自治会の会員になったと記憶しています。当時を思い起こすと、地域活動のための施設はほとんどなく、まさに窮乏の無施設時代でありました。そのような時代に設立された星が丘公民館が担ってきた役割は地域活動において非常に大きかったと思います。

又、草創期における幾多の難関を乗り越えて公民館活動の礎を築き、そして今日まで守り通して頂いた諸先輩方々の苦労は計り知れないものがあったと思います。現代社会は急速に進展していきます。そのような社会の中で、地域に根付いた活動を行っている星が丘公民館の役割というのはこれまで以上に増してくると思います。

これからの社会は少子高齢が加速し、人と人との関わり合いも希薄になってゆくと思います。そんな社会だからこそ星が丘公民館の担う役割は大変重要なものと思って止みません。私も星が丘公民館の地域活動に微力ながらお力添えをさせて頂きたいと思っており、輝かしい地域社会の構築をして頂きたいと祈念いたします。



元職員
(昭和53年4月～54年3月)
市川 正美



元職員
(昭和54年4月～61年3月)
西東 邦雄

星が丘公民館の思い出

星が丘公民館創立50周年おめでとうございます。
私は、昭和53年4月から、1年間の短い期間でしたが、
星が丘公民館に専任職員として勤務をいたしました。

当時の地域公民館の状況は、上溝、相模台、大野中、
大野北の4館以外の公民館は、組織公民館と言われて
いました。専用の施設はなく、住民により組織された
体育部などの公民館専門部が市内の小中学校のグラウ
ンドなどを利用して、体育事業を主にした公民館活動
を行っておりました。この年、組織公民館にも職員が
一人配置されることになったのです。

星が丘公民館は、体育活動のみならず、女性学級な
どの学習文化活動も盛んで、市内でも公民館活動の活
発な地域でしたが、活動拠点となっている建物は、現
在の公民館付近にあった木造の講堂でした。ここに勤
務をすることになったのですが、現在のような冷暖房
設備もなく、どこからでもすきま風が入ってくるよう
な古い建物でしたので、館長をはじめ、専門部、利用
者の皆さんが清掃やカーテンの取り付けなどをして事
務室を整備してくださいました。専任職員が配置され、
公民館への地域の皆さんの期待の大きさを感じた次第
です。

星が丘公民館の活動がこれからも地域の皆さんによ
り担われ、さらに発展することをお祈りいたします。

星が丘公民館賛歌

組織公民館3年、独立公民館4年、計7年もの間、星
が丘公民館での職員生活をさせていただきました。ま
さに家族のようになれ親しみ、家族のようにとっぷり
と入り込んだ星が丘の人たちであり、地域でした。素
敵で、個性的で、魅力的な人がたくさんいます。私に
とって、今になってみればふるさとのような存在です。
赴任した当時は、ちょうど長女が生まれた年でした。
親としても職員としてもずいぶんと皆さんに育てられ
ました。

星が丘公民館を語る時は、そのようなことでふるさ
と自慢のようになってしまいます。星が丘公民館には
いくつもの先駆的な取り組みがあります。中でも独立
公民館建設に向けた「公民館施設要望委員会」の活動、
独自の公民館専門委員会の活動、自治会やPTA、やっ
きの会などと連携した地域事業、そして地域史づくり
など。市民活動の一つのモデルとして小学4年の社会
科の教科書（東京出版）に掲載されたり、社会教育の
専門雑誌などでも多く取り上げられています。地域の
大きな財産ともいえます。

星が丘公民館の50年を支えてきたのは、まさに人だ
と思います。前向きで、向上心旺盛で、そして献身的で、
おせっかいで、そうした人たちの知恵と工夫でつくら
れた歴史でもあります。

星が丘公民館で働けたことを誇りに思っています。
さらなる活動を期待しています。

星が丘公民館歴代館長・副館長

館 長

昭和33～46年度	高木 肇
昭和47～48年度	田中 四郎
昭和49～平成5年度	矢沢 茂重
平成6年度	斎藤 寛
平成7～14年度	金子 勇
平成15～現在	小泉 博

副館長

昭和33年度	山村菊次郎
34年度	石井 光明
35～38年度	荒井 力蔵
39～42年度	小池 知治
43～46年度	田中 四郎
47～48年度	矢沢 茂重
49～51年度	岸田 茂理
52～56年度	西山 洋一
副館長不在	
平成3～5年度	斎藤 寛
副館長不在	
13～16年度	小林 祥子

以下 副館長職の廃止

主 旨

平成10年10月作成

星が丘公民館は昭和33年、組織公民館として星が丘小学校の講堂の一部に開設されました。49年には講堂も公民館専用として利用できるようになり、文字通り地域の「社会教育の拠点」として住民主体による事業運営がされてきました。

現在の公民館は、「公民館運営協議会」が中心となり学習・文化・スポーツの拠点として多くの地域住民によって活発な活動が続けられております。

しかし、少子・高齢社会の到来、地域社会の連帯感の希薄化が進むなかで住民の生涯学習の意欲に対応する公民館運営が求められております。

社会の変化に柔軟に対応できる組織づくり、事業展開を図るために本計画が策定されました。

基本理念

1 誰にも親しまれる地域に開かれた公民館をめざします。
2 地域の人々の生涯学習の拠点として、住民の自主的な活動を支えることをめざします。
3 文化や芸術を高め、スポーツに親しみ、お互いの心が通じ合える豊かな地域づくりをめざします。
4 地域の人々が共にいきいきと暮らし、子どもたちの豊かな心を育む環境づくりをめざします。

重点目標

【学習文化活動】

社会の変化に対応し、住民の要望等を積極的に取り入れ、互いに学びあう学習文化活動をすすめます。

【スポーツ・レクリエーション活動】

健康の維持・増進や仲間づくりを目的としたスポーツ・レクリエーション活動をすすめます。

【青少年活動】

青少年が自主的に生き生きと活動を広げていく環境づくりをすすめます。

【広報活動】

地域の住民に親しまれる館報・ホームページなどを通し、広報活動の充実につとめます。

星が丘地区の情報発信の拠点として、地域住民に館区内の様子や話題を提供し、公民館への関心をたかめます。

【学社連携・融合活動】

子どもたちが心豊かに育つ環境づくりをめざし、学校と地域の連携を密にしていきます。

活動計画

【学習文化活動】

- 社会の変化に即応した地域課題、生活課題の学習・文化活動を進め、地域住民の学習意欲の向上につとめます。
- 子どもたちがいきいきと豊かに暮らす地域づくりをすすめます。
- 高齢者が積極的に地域活動に参加できる事業をすすめます。
- 新たな仲間づくりのための環境を整え、自主グループの育成を支援します。

【スポーツ・レクリエーション活動】

- 誰もが参加し、楽しめるスポーツ・レクリエーションの普及・振興をはかります。
- スポーツ・レクリエーション活動を通して健康の増進をはかり、地域の輪を広げるための仲間づくりをすすめます。
- 自治会及び地域団体との連携を密にし、より多くの人が参加できる事業づくりにつとめます。

【青少年活動】

- 青少年が参加できる事業づくりをすすめます。
- 青少年が自主的に活動できる環境づくりをすすめます。

【広報活動】

- 館報やホームページなどにより地域へ情報を提供していきます。
- 公民館の情報発信の拠点として、公民館活動をはじめ、地域や学校の様々な行事・話題などを紹介し、住民参加を促します。

【学社連携・融合活動】

- 心身共に健やかに育つ子どもたちの「生きる力」を育み、学校や地域団体との連携を密にして事業の充実をはかります。
- 地域住民の積極的な活用と地域の特色をいかした事業づくりをすすめ、地域の「教育力」を高めます。

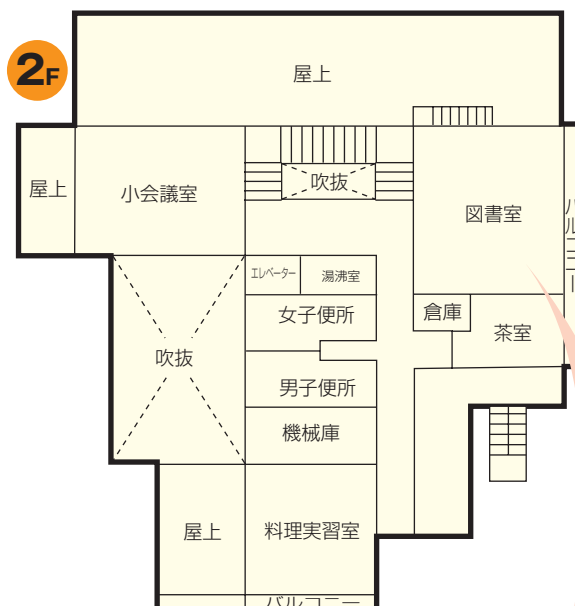
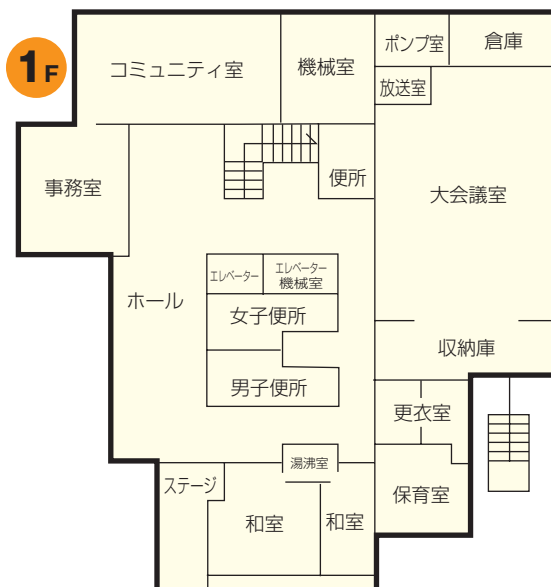
公民館見取図

1階

大会議室	120㎡	・ 定員120人
和室	30畳	・ 定員 60人
コミュニティ室	61㎡	・ 定員 30人
保育室	28㎡	・ 定員 14人
事務室	38㎡	

2階

小会議室	48㎡	・ 定員30人
料理講習室	63㎡	・ 定員32人
茶室	8畳	・ 定員12人
図書室	80㎡	



図書室



蔵書数

一般書	9,354冊	
児童書	7,910冊	(内 紙芝居308)
蔵書総数	17,264冊	
会館日数	24日	

7月の貸し出し状況

一般書	1,433冊	(内 外国書 1)
児童書	1,459冊	(内 紙芝居 58)
雑誌	32冊	
一日平均貸し出し冊数	122冊	
貸し出し者	924人	
1人平均貸し出し冊数	3.2冊	

(平成19年7月調べ)



星が丘公民館

50周年記念式典 / 祝賀会

相模原市立星が丘公民館

創立50周年記念

式典



昭和33年、社会情勢がめまぐるしく変化するなか、住民の強い希望と先輩たちの多大なるご苦勞により設置された星が丘公民館。

設立以来地域の生涯学習の場として住民の学びを支えて来た公民館は平成20年5月18日、星が丘小学校の体育館に於いて二百余名の参加者の下、創立50周年記念式典・祝賀会が盛大に挙行されました。

ご臨席を戴いた加山俊夫相模原市長より「公民館は地域発展の拠点。人々の出会いや集い、学習の場としての事業を展開し、今後も星が丘の文化を創造して戴きたい」と、熱いエールがおくられました。

開催日 平成20年5月18日(日)
会場 星が丘小学校体育館

～ オープニングセレモニー ～

・星が丘鼓笛隊

指揮：橋本 桃佳

曲目：「市民歌」

「プラネタリウム」

「ダイヤモンド」

・コールブルメリア

指揮：小林 祥子

曲目：オペラ『道行』より

「私は歌い続ける」

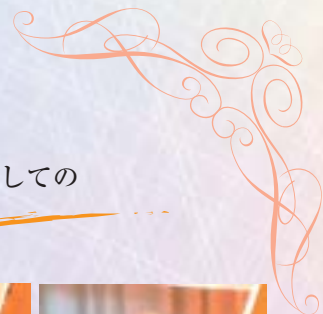
「伝えよう輝く未来へ」

～ 式 次 第 ～

第一部 記念式典 午前10時から

1. 開式のことば
2. 実行委員長あいさつ
3. 公民館長あいさつ
4. 来賓祝辞
5. 来賓紹介
6. 祝電披露
7. 感謝状贈呈
8. 受賞者代表謝辞
9. 記念品贈呈 (目録)
10. 閉式のことば

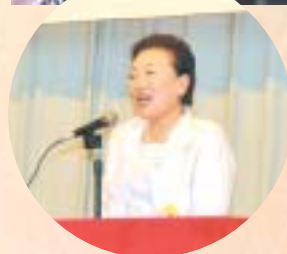




学習・文化・スポーツの拠点としての
公民館を目指して！



この表彰を第二の出発点として・・・



記念品目録

公民館旗一式
茶道具一式
テント
花壇整備 他



創立50周年記念

祝賀会



第二部 祝賀会 午前11時から

1. 開会のことば
2. 実行委員長謝辞
3. 来賓祝辞
4. 乾杯
5. アトラクション
相模粹鼓会 「祭り囃子」
6. 閉会のことば

～ 感謝状受賞者 ～

(公民館活動経歴年数順)

高橋 幸子 様	石井千太郎 様
平本 克己 様	笹野 賢司 様
西村美代子 様	武川 緑 様
堀澤 芳夫 様	矢板 茂 様
藤澤 重治 様	後藤 勇隆 様
北畠 和子 様	及川 憲造 様
鈴木 高造 様	原口 博 様
矢沢 茂重 様	小田中 壽 様
小川 七郎 様	佐藤 里子 様
久保田栄一 様	金子 勇 様
小田中貞子 様	杉崎 正子 様
今井 清利 様	伊藤 孝男 様



祝典を盛り上げる粋鼓会の皆さん



50年を支えてきた笑顔



より良い記念誌を目指して

底辺を支える職員の方々

式典前日の準備風景



式典・祝賀会を終えて



創立50周年記念事業 協賛者御芳名

皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

実行委員一同

団 体 等

- 星が丘地区自治会連合会
- 星が丘自治会連合会
- 千代田自治会連合会
- 星が丘地区社会福祉協議会
- 星が丘地区民生委員・児童委員協議会
- 星が丘公民館区青少年健全育成協議会
- 星が丘地区子ども会育成連絡協議会
- 星が丘地区老人クラブ連合会
- 星が丘地区交通安全母の会
- 相模原市交通安全協会星が丘支部
- 相模原市交通安全協会千代田支部
- 相模原市消防団第一分団第九部消防後援会
- 星が丘公民館体育委員会
- 相模原市立星が丘小学校PTA
- 相模原市立上溝中学校PTA
- 星が丘地区シルバー人材センター
- やっきの会
- 星が丘二丁目子ども会
- 星が丘四丁目子ども会
- あさかぜ子ども会
- はやぶさ子ども会
- 千代田つくし子ども会
- 横山3丁目子ども会
- 横山六・六会
- 星光クラブ
- 星が丘鼓笛隊

法人・企業等

CUT・SHOPちよだ

あかつき旗店

池田園

井上酒類販売

菓子工房くろさわ

金井種苗

京料理 梅の香

クリーニング組合上溝ブロック

小島塗装

小宮畳店

星光印刷

創作陶器 はじ里

ナカムラヤ

のみ処くい処 じっぽ

原酒店

美々美容室

堀澤畳店

明王茶園

八木土木興業・ゆき乃・金太郎・ツリエト

ヤマグチ建装

理容組合中央2区

理容ヤナギダ

井村電気商会

黒沼金物店

壽食品

サンキ

ジャクエツ相模原店

力金物店

西野工務店

相原酒店

オートサービス千代田

協栄印刷所

小松商事

野崎工機所

藤スポーツ

升屋酒店

ライズ野辺沼

亀ヶ池八幡宮

神奈川県豊工業協同組合相模原支部

社会福祉法人上溝緑寿会

サクセスファイブ

セカンドスターズ

星が丘一丁目スポーツクラブ

星友睦

千代田マリーンズ

社会福祉法人ふじ乳児保育園

社会福祉法人星ヶ丘二葉園

三浦英夫税理士事務所

宮本医院

社会福祉法人悠朋会

八千代銀行淵野辺支店千代田出張所

個人

あ 青柳 勇
赤坂 恒子
浅沼 清司
浅野井 万吉
芦川 均郎
麻生 節治
安達 健武
安立 武晴
安野 寿美
網宮 政雄
雨宮 秀之
安藤 和次郎
い 飯田 孝
飯塚 勇
飯塚 功治
飯沼 克己
飯野 勝久
五十嵐 公彦
池田 靖一郎
池田 陽司
池本 孝太郎
石井 千尚
石井 政章
石川 富雄
石黒 彦彦
石野 正廣
石橋 孝夫
石丸 志磨
泉 豊
井関 亀一
市川 好彦
伊藤 清夫
伊藤 貞二
伊藤 孝男
伊藤 信明
伊藤 巳子

伊藤 雄
井上 晃
井上 光
井上 一夫
井上 京子
井上 英武
井上 春子
井上 泰子
井上 礼子
井上 秀機
井上 周雄
井上 一男
井上 英二
井上 忠男
井上 千恵子
井上 和弘
井上 勝一
井上 幸穂
井上 ヒサエ
井上 秋一
井上 美智子
井上 豊雄
井上 邦子
井上 美子
井上 子茂
井上 昇子
井上 キ子
井上 雄子
井上 子造
井上 雄一
井上 枝子
井上 功

大塚 正和
大貫 鬼灯
大貫 行一
大貫 眞一
大貫 隅子
大貫 彦彦
大貫 浩輝
大野 義敏
大野 敏子
大野 利子
大野 昭明
大野 千代子
大野 ミツ代
大野 茂一
大野 和郎
大野 明助
大野 之助
大野 男二
大野 健二
大野 俊一
大野 正明
大野 明義
大野 壽子
大野 則雄
大野 清次
大野 尚世
大野 宏肇
大野 孝治
大野 一昭
大野 一忠

加藤 寅治
金澤 正良
金子 須磨夫
鎌井 良一
亀山 武桂
川木 宣法
川崎 文雄
川崎 一人
川崎 明光
川崎 瞭司
川崎 茂二
木口 章吉
菊池 末晴
菊池 基之
菊池 子夫
北畠 敏夫
北畠 正夫
北橋 利夫
杵野 守順
木ノ内 ハツ夫
木下 良次
木原 富啓
木村 生強
草川 敏子
楠野 睦子
国保 保一
久保 明
久保 豊
倉橋 昌生
倉本 司男

紅林 春惠
小泉 哲男
小泉 留二
小泉 トヨ子
小泉 美恵子
小河 隆一
小嶋 正次
小嶋 幸弘
小嶋 養一
小嶋 勉治
小菅 久子
小関 克正
小関 直俊
小関 良一
小林 文夫
小林 祥子
小林 伸男
小林 久栄
小林 弘明
小林 保雄
小宮 芳宏
小森 通
小柳 安太郎
小山 敦崇
小近 修子
近藤 節子
近藤 玉
近藤 邦
近藤 浩一
近藤 壽一
近藤 昭作
近藤 治雄
近藤 光雄
近藤 八重子

藤 野 富 一	松 崎 修 一	宮 林 繁 作	柳 川 良 二	鎗 水 英 治
伏 見 千 代	松 沢 恒 行	宮 部 将 典	柳 内 伸 一	よ 横 田 進
藤 本 優 夫	松 島 弘 行	宮 本 勝 喜	山 卷 守	横 田 智 治
古 井 勲 夫	松 田 勝 一 郎	宮 本 弘 文	山 口 喜 代 子	吉 川 順 一 丸
古 川 光 雄	松 田 昌 宏	む 村 田 英 治	山 口 京 子	吉 川 隆 一
古 沢 久 次	松 本 厚 生	も 取 住 勝 己	山 口 さ ゆ り	吉 澤 修 二 郎
古 田 繁 正	松 本 英 俊	持 田 義 史	山 口 宗 吉	吉 田 薫 子
ほ 帆 足 德 美	み 三 浦 茂 行	望 月 久 嘉 秀	山 口 富 雄 夫	吉 田 久 林 三
堀 田 菊 枝	三 浦 昭 二 雄	望 月 宗 賢 二 稔	山 口 秀 清 二	わ 若 林 勝 敏
本 郷 睦 雄 夫	三 浦 俊 洋 子	森 崎 野 本 雅 之	山 崎 安 則	若 林 公 治
本 多 俊 幹 雄	三 浦 賢 一 祠	や 八 百 川 洋 子	山 崎 キ ク エ	鷺 野 邊 一 彦
ま 前 田 眸 司	三 澤 武 幸 代	八 木 一 男	山 田 治 秀 朗	渡 辺 太 右 門
牧 島 浩 志	三 澤 幸 鼓 之 平	八 木 信 雄	山 田 節 郎	渡 辺 正 男
増 子 博 藏	三 川 浪 毅 功 春 正	八 木 真 由 美 重 男	山 田 秀 昭 孝	渡 辺 雅 子
増 田 輝 男 美 義 行	南 川 崎 正	矢 澤 茂 時 光 則 一	山 室 義 勝 治 郎	
増 田 広 和 義 行	宮 崎 崎 正	安 間 部 光 則 一	山 本 敏 雄 江	
舩 町 屋 俊 行	宮 崎 崎 正	柳 川 雅 一	山 本 福 江	

サークル

- 赤い実
- あじさい会
- あすか
- あずさ
- アトリエ・レモン
- アンサンブルパフェ
- 絵手紙サークルさくら
- 絵手紙サークル花みずき
- 神奈川高齢者体育会星が丘教室
- ギターサークル・マドリード
- 吟友会教場・柴胡教場
- 健康体操ゆいの会
- 健康美容ダンス
- 好人
- コール・ブルメリア
- 刻字の会かすみ
- コスモス
- サークル・コパン
- サウンドウェーブ
- さがみ葵連
- さがみてるて姫の会
- 相模原写友会
- 相模原川柳協会
- さとゆき会
- サワディー
- 写団ひばり
- 照星会
- 粹鼓會
- ストレッチたんぽぽの会
- 星光会
- 清友書道会
- 太極拳倶楽部
- たんぽぽバレエ
- 竹謡会
- 中央YM
- つくし会
- 童謡・唱歌 なかよし
- 菜の花会
- なるこスマイル
- ハッピーダンスクラブ
- ハッピーダンスマシン
- 花舞合歓ノ木
- はねかづら
- パレット
- フォークダンスぶらんこ
- フォトさがみ
- 福祉を考える会ゆずり葉
- 二藤会
- 文月会
- フライデーズ
- フラワーw i z 星が丘
- ヘモレレハワイアンフラ
- ボイスの会てるて
- 星が丘囲碁会
- 星が丘お茶の会
- 星が丘剣友会
- 星が丘琴の会
- ほしが丘短歌会
- 星が丘童謡・唱歌を歌う会
- 星が丘フォトクラブ
- 星が丘謡曲同好会
- 星が丘4丁目はやし連
- ママ&ワンだふる キッズの会
- 迷柳会
- 陽光
- ヨガサークルエポック
- 怜扇会
- 蓮華の会
- わかな会

星が丘公民館創立50周年記念事業実行委員名簿

役 員	
実行委員長	野中 保
副実行委員長	山田 節朗
記念誌委員長	北畠 和子
記念誌副委員長	小田中貞子
事業委員長	平本 克己
事業副委員長	小林 祥子
表彰委員長	藤澤 重治
表彰副委員長	上田 忠男
予算委員長	竹田 幹夫
予算副委員長	野中 敬一
会計	井上 晃
会計	笹野 賢司
会計監査	藤木 優

記念誌委員会	北畠 和子 大野 緑 佐藤 直子 原口 博	小田中貞子 川崎 洋子 新宮領博子 堀澤 芳夫	井上アヤ子 楠野 睦子 杉崎 正子 三浦 洋子	伊藤 静江 佐伯 直美 鈴木 綾子	伊藤 陽子 佐藤 里子 中村 光枝
--------	--------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	-------------------------	-------------------------

事業委員会	平本 克己 大久保聡子 柿崎比呂美 小西 進 立山 均 羽賀 依子 本郷 永子 山内恵美子	小林 祥子 小川 英明 粕谷 哲司 今野 瑞穂 田辺 健治 平野 晴幸 松島 弘行 吉井 優子	岩田 勝雄 長田 芳子 川口 宣法 篠崎 弘行 積山 順一 平野 廣幸 三浦 嘉孝 吉澤修二郎	岩本 義昭 小関 久子 岸 周子 柴田 正隆 鯉江 勝政 福田 昭三 御子柴直美 吉田 久子	及川 憲造 小田中 壽 桐生 賀子 添田 紀子 野辺沼五和美 藤本 和夫 宮川喜美代
-------	--	--	--	---	--

表彰委員会	藤澤 重治 笹野 賢司	上田 忠男 高橋 強	大貫 眞一 西村美代子	川木 桂	木原 富次
-------	----------------	---------------	----------------	------	-------

予算委員会	竹田 幹夫 川野辺貞治 佐藤 宏 中島 初男 若山美代子	野中 敬一 河野 隆 鈴木 正一 中村 光治	石井 政尚 河本 瞭 関田 勝利 藤本 勝	井上 晃 小島 正次 徳 和彦 柳川 雅一	川口流美子 坂本 洋三 中尾 重喜 横田 智治
-------	--	---------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	----------------------------------



編集後記

平成19年3月13日の第1回星が丘公民館創立50周年記念実行委員会において、「予算」「表彰」「事業」そして「記念誌」の4つの小委員会が発足し、記念誌委員会は18名のメンバーでスタートとなりました。

早速記念誌全体のイメージなどの検討を始めました。写真を多く平易な言葉で子どもたちにも読んでもらえるものにする、色調はベージュや緑色を基調とした柔らかいトーンで仕上げる、そして表紙には星が丘のシンボルとして現在も公民館正面にしっかりと根を下ろしている「すずかけの木」を使うこと、などを決めました。

委員それぞれが担当コラムに責任を持って取材に当たる事を確認。委員会も20数回を重ね、その都度原稿を持ち寄り、写真なども選びました。検討に検討を重ね、一稿を業者をお願いしたときには既に12月に入っておりました。50年と言う長い歴史を限られた紙面に表すことの困難さを味わいながらも、毎回白熱した意見が飛び交い、1年は瞬く間に過ぎてしまいました。この記念誌作成によって私たちは、この地域が多くの先輩の方々のたゆまないご苦勞によって作られてきたことを学びました。

また、この記念誌の完成に当たっては、野中実行委員長、小泉公民館長をはじめ各委員会の役員の方々、それに力強く後押しをして下さった八木公民館長代理他職員の方々のお力が大きかったことを忘れることは出来ません。加えて、業者の方からも我儘な私たちの要望に対し、惜しみないご協力を頂きましたことを心から感謝いたします。

最後に、多くの方々に助けられ誕生したこの記念誌をいつまでも皆さまのお茶の間に置いていただけますよう心より願っております。

(記念誌委員会一同)

星が丘公民館創立50周年記念誌 ほしがおか 50th HOSHIGAOKA

発行日 平成20年9月吉日
発行者 星が丘公民館創立50周年記念事業実行委員会
事務局 相模原市立星が丘公民館
〒229-0038 相模原市星が丘 3-1-38
印刷所 有限会社 協栄印刷所 相模原市星が丘2-8-21